

ふるさと再発見

ー 島原城のお正月 ー

今回は初代松平島原藩主・松平忠房が島原に入って間もない1670年ごろ（寛文年間）にさかのぼり「島原城のお正月」についてのお話です。

島原藩の政務を記録した『藩日記』をのぞいてみると、元旦の忠房は、寅の前刻（4時ごろ）に起床し、以後数日にわたって各人からの「御礼（年始の挨拶）」を受けます。

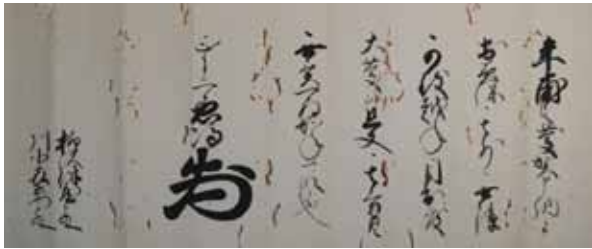
番人・町人や庄屋・乙名（村役人）なども「御礼」に参上し、料理や雑煮や酒肴が振る舞われています。九州の諸藩などからの「御祝儀」（今でいう年賀状）が飛脚によって届けられます。正月の恒例行事の一つ、「御謡初」も行われました。

ただ1673年（寛文13年）は、保科正之（陸奥会津藩主、徳川家光の弟）が前月に亡くなり、音曲停止が幕府より発令されたため、正月10日に日延べしで行われました。

この時のお囃子の演目が「老松・東北・高砂」だったことも記録されています。

また、この年は忠房が初夢で富士山を見たようで、それを披露するための内々の「御謡初」も行われました。

料理の振る舞いや夢の披露で幸せを分かち合う。自分だけでなく周りを幸せにするような、そんなお正月にしたいものです。（松平文庫学芸員 吉田 信也）



松平忠馮の書状（お殿様の年賀状）
（松平文庫蔵）

クローズアップ

Close Up!

島原市女性消防隊



今回、紹介するのは市民の生命・財産を守るため、女性だけで組織された「島原市女性消防隊」の皆さんです。

女性消防隊は、平成21年4月に結成され、主婦や農業、自営業などさまざまな職種の女性10人が家事との両立を図りながら活動しています。

主な活動は、消防出初式や市防災避難訓練、小学校避難訓練への参加のほか、ロープ結びや礼式、AEDの訓練、独居老人宅での火災予防啓発などを行っています。

隊員に話を聞くと、「入隊するまでは消火器の使用など経験できない

ことがたくさんありました。今では、消火器やAEDの使用方法も分かり、いざという時、落ち着いて行動できます」、「自分が学んだ知識を地域の皆さんに伝えていきたい」という声がありました。

また、隊長の上田すず子さんは、「今後も訓練を継続し、女性ならではの視点を生かし、地域のさらなる安全安心なまちづくりに貢献していきたい」と話してくれました。

女性だからこそその能力を発揮する女性消防隊員の活躍が、今後ますます期待されています。

女性消防隊に興味がある人は島原市消防団本部（☎④607）へ問い合わせてください。



AEDを使った救命講習を受ける隊員